

B 班**(B. 2) 門司鐵道局小倉工場**

定刻午前9時には會員 66 名集合。直ちに工場見學を行ふ。當工場は主に車輛の修理並びに客車、貨車の新造或は修理を目的とし、最後の陳列館にて實物の 1/10 の列車の運轉に興味を感ず 10 時 10 分辭し、徒歩小倉工廠に向ふ。

(B. 5) 陸軍造兵廠小倉工廠

10 時 25 分着。三班に分れ 1 時間 30 分にわたりて廠内を見學す。當日は造兵廠長官の檢閲日にて多忙なるに拘らず、場内隈なく案内され只感謝の外はなし。それより同所集會所にて晝食す。本晝食は午後見學すべき淺野製鋼所並びに東京製鋼會社より提供され、中村淺野製鋼支配人並びに香月東京製鋼工場長の挨拶ありて、之に對し依前會長の謝辭あり、而して工廠長渡邊少將閣下には御多忙中少閑を利し御挨拶に參られ、之に對し依前會長の謝辭ありき。それより會社差廻しの自動車に分乘し、淺野製鋼所に至る。午後 1 時 25 分

(B. 6) 淺野小倉製鋼所

會員約 50 名、工場一巡後、更に目下建設中の熔鑄爐一基、平爐二基、靱炭爐等を見學して 2 時辭し、それより海路東京製鋼會社に向ふ。

(B. 7) 東京製鋼會社小倉工場

會員 47 名。直ちに工場見學に向ひ、ワイヤーロープ各種の製造狀況を具に見學し 3 時 30 分會社を辭し、再び海路にて門司市大里櫻ビール會社に向ふ。船は會社よりの御好意により、波稍と高かりしも幸にして船酔者なし。

(9) 櫻ビール會社

午後 4 時 0 分着。3 班に分れて工場見學を行ふ。(以下 A 班の項参照)

第 5 日 隨意工場見學 10 月 21 日 (水曜) 快晴**(a 班)**

(ト) 八幡製鐵所:— 相會する者 35 名餘。本日は特別見學を除き 10 月 19 日 (1) に記せし如き順序にて正午迄工場見學を行ひ、それより中央區④デパートにて各自晝食をとり、(b) (c) 兩班に合す。(b 班 (7) の項参照)

(b 班)

(チ) 安川電機製作所 (該社は本日慰安會に付辭退)

(リ) 黒崎窯業會社:— 參加者 7 名。高良技師長の説明後 11 時 30 分より珪石、シャモット等の各工場にて回轉式水壓プレス、倒煙式窯、小型平爐等の特殊設備を見學し、それより同社の好意による自動車にて④デパートに至り a. c 兩班と合流し、各自晝食をとり、午後は d. e 二班に分る。

(c 班)

(ヌ) 安田製釘所:— 午前 9 時 40 分迄に 10 名の集合あり、瀧川所長の挨拶及び最近の作業概況の説明ありたる後、工場見學を行ふ。10 時 25 分辭社し徒歩にて日本タールに向ふ。

(ル) 日本タール牧山工場:— 山田製造部長より挨拶並びに作業概要の説明ありたる後、工場見學を行ふ。11 時 50 分辭社と共に御好意の自動車 1 臺にて④百貨店に向ふ。(b 班の項参照)。

(d 班)

(ヲ) 門鐵小倉工場:— バスにて同工場に向ひ、先着者と合し、合計 14 名にて約 30 分の豫定で車輛の修繕、改造、新作業及び參考館を見學せるに、官營工場の常として統制經濟的見地より得る所多かりき。それより希望者 8 名は國產工業戸畑製作所差廻しの自動

車にて同社に至る。

(ワ) 國產工業、戸畑製作所:— 同社に相會する者 24 名。3 班に見學せり。(第四日 (A 4) 参照) 3 時 20 分同所を辭し、徒歩にて共同漁業會社に至り標本室參觀後、徒歩にて東洋製罐に至る。

(カ) 東洋製罐、戸畑工場:— (第四日 (A 5) 参照) 5 時 30 分全部終了解散。(22 名)

(e 班)

(コ) 東海鋼業會社:— 戸畑市棧橋より若松に渡り、一行 8 名は同社廻しの自動車 2 臺に分乘して同社着後、井上技術部長の作業概況の説明あり、それより工場見學を行ふ。

午後 2 時 30 分社を辭し、徒歩にて國產工業、若松製作所に至る。

(ク) 國產工業若松製作所:— 到着後、堀岡所長の挨拶並びに作業概要の説明ありたる後、谷口委員謝辭を述べ工場に向ひ新合金トバタロイの説明等あり、4 時 15 分同社を辭し、茲に工場見學を全部終了解散せり。

以上各工場にては、何れも懇切なる御案内と詳細なる御説明を加へられ、剩さへパンフレットの贈與並びに茶菓、食事の饗應をうけ會員一同多大の満足と深き感謝の念に満ち見學を終了したることを特記し、併せて第 4 日隨意見學日に於ける岡崎、高橋、谷口各委員の勞を多とす。(文責在記者)

第 2 班**第 3 日 工場見學 10 月 19 日 (月曜日) 曇天**

午前 8 時 18 分、博多驛發列車にて雜餉隈に向ふ。同 8 時 29 分雜餉隈驛着、同驛より徒歩にて約 5 分、渡邊鐵工所に着す。會員約 85 名。事務所階上にて茶菓の接待を受けつゝ社長、渡邊福雄氏の挨拶、工場概要説明及び見學上の注意あり、水谷會長の謝辭ありて後數班に分れ夫々掛員に伴はれ、航空機體製作工場及び兵器工場を約 50 分間に亘り見學す。事務所にて暫時休憩後、同所を辭し、雜餉隈驛に向ふ。同驛午前 10 時 23 分發上り列車にて同 38 分博多驛に歸着す。同驛まで唐津鐵工場重役近藤淳直氏代理出迎へらる。

北九州鐵道、東唐津行ディーゼル・カーに乗換へ 10 時 55 分發、沿線の風水を賞しつつ午後 0 時 55 分東唐津驛に到着す。直にシー・サイド・ホテルに向ひ同ホテルに於て唐津鐵工所の御好意による晝食の饗應を受く。食後近藤淳直氏及び唐津市觀光係の方より、工場概要並びに同地方史跡等に就き興味深き説明あり。又唐津鐵工所製作工作機械目錄及び名所繪葉書を寄贈さる。後約 20 臺の自動車を進め、領布振山に登り唐津灣の風景を一望の中に眺め舞鶴公園を経て唐津鐵工所に到る。約 30 分間見學の後同所を辭し徒歩西唐津驛に到る。此處より一部の會員は第一班見學參加の爲、東唐津驛に引返せり。唐津鐵工所の方々の御見送を受け午後 4 時 50 分同驛發長崎に向ふ。途中又久保田驛及び肥前山崎驛にて乗換、同驛まで三菱長崎造船所、佐々木新太郎氏の御出迎あり。車中同氏より長崎に於ける宿所に就て御注意あり。午後 9 時 35 分長崎驛に到着かくて見學第一日目終了す。

第 4 日 工場見學 10 月 20 日 (火曜日) 第 2 班 快晴

午前 10 時、浦上三菱造船所電氣製鋼所へ集合、受付にて營業案内及び長崎市案内圖の寄贈にあづかり、數班に分れて電氣製鋼所を見學す。前日と異り非常に好天気となり肌に汗を覺ゆ。次で雁延工場を見學後同社にて用意されたる自動車に分乘し、飽ノ浦造機工場に到る。同所に於ては仕上工場、機械工場、製罐工場、鑄造工場銅工場、工具工場等を順次見學し、次の材料實驗場を參觀後占勝閣に到り芝生に設けられたる天幕張休養所に於て晝食の饗應を受く。食前造船所長玉井喬介氏の挨拶あり。これに對し水谷會長謝辭を述べ。食後再び各掛員に案内されて造船工場を見學し、午後 2 時頃、同社の小蒸氣船にて大波止場に向ひ此處に於て解散せり、